



梅荘 本館、別館、離れ、女中部屋及び台所、蔵



指定区分	国登録有形文化財(建造物)
読みかた	ばいそうほんかんべっかんはなれじょちゅうべやおよびだいどころくら
所在地	倉敷市児島通生
指定年月日	平成27年3月26日
解説	梅荘は、児島半島に所在し、西側に瀬戸内海が一望できる場所に立地している。塩田王として有名な野崎武左衛門の孫である武吉郎が、日露戦勝記念として建てた別荘で、当初は野崎家の海水浴用の休憩所として計画された。本館を中心に、その北側に別館、西側に離れ、東側に女中部屋及び台所、北東側に蔵を配置している。別館は明治初期頃の建物を移築したものと伝えられるが、その他は明治40年(1907)の竣工と考えられる。庭に梅の木が多くあったことから「梅荘」と呼ばれた。現在は、所有者が変わり、店舗として利用されている。建築当時、文化人や地域の名士などを中心に煎茶の文化が発達していたが、煎茶室を附属した座敷をもつ本館や、煎茶趣味の離れは、近代における座敷の発達の特徴を示し、貴重である。
アクセス方法	[車]JR児島駅から10分 [公共交通]JR倉敷駅からバスで約30分
公開状況	本館の一部は、現在うどん店として利用されている。
設備	トイレ  駐車場 
備考	